

校内研修計画

教育目標

「人間性豊かで、行動力のある、心身ともに健康な児童の育成」

1 研究主題

「豊かなかかわりを大切にして、自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」
～いきいきと学び合う授業の工夫～

(1) テーマ設定の理由

本校は以前から、厳しい環境の子どもたちの実態を把握し、教師が子どもに関わり、子ども同士を関わらせる取組を大事にしてきた歴史がある。人権教育を基盤とした学ぶ仲間づくりを行い「まなごしの共有」を合い言葉としてその取組を受け継ぎながら、全員の学力保障をめざす授業を構築しようとしてきた学校である。

昨年度は研究主題にある「豊かなかかわり」と「自分の思いや考えを伝え合う」ということを実現するために、短作文や対話朝礼、音読朝礼などの充実を図り、児童の表現力を高めることができた。しかし、あらゆる学習場面で活用力や応用力に苦手さが見られることは未だ否めない。外国語教育では、目的・場面・状況を明確にした児童が主体的に学びに向かえるような単元づくりを研究してきた。その結果、昨年度の外国語教育意識調査では児童の英語学習に対する主体性の高まりが見られ、一定の成果を得られたことが分かる。しかし、教師側の外国語教育に対する不安は依然として残っており、見通しと自信を持った指導の実現は十分でないという現状がある。

そこで、今年度は将来を見据えて子どもたちが抱える課題を解決しながら豊かな学びを実現するための方策として、ふり返りの充実を大きなテーマとして掲げ、その時間の確保や課題とふり返りの一貫性を持たした授業改善を図ることで、子ども達の主体的な学びを育てたいと考える。また、対話力の下支えとなる語彙力を高める取組も継続して行っていきたい。外国語教育においては英語教育推進事業の研究指定3年目を迎え、児童の英語学習に向かう姿勢や個々の英語力の高まりなど、これまでの研究の成果が積み上がっている状態にある。今年度はそれらを継続させつつ、児童にとって更に価値のある学びを実現するために、カリキュラムマネジメントの視点から教育活動全体を題材として単元づくりをことに焦点を当てていく。その上で、児童一人ひとりが自分の思いを豊かに表現することを共通の目標とし、全教員で授業づくりのまなごしを共有していきたい。

課題である活用力・応用力の弱さに関しては、今までの学びを支えてきた基礎学力定着の取組を継続しながら、課題解決に向けて学校全体で統一した取組を行い、将来につながる学び方と生き方を教える学校づくりに取り組んでいきたい。

羽根小に必要な大事にしたい実践を全員一致で行い、子どもたちが関わり合って主体的に学び合える研究と取組を行っていくこととする。

(2) 児童につけたい力

- 対話できる力
- 活用できる力〔思考力・読解力・探究力〕
- 関わり認め合う力
- 主体的に行動できる力
- 心と体を育てる力

(3) 研究仮説

- ① 対話力、活用力を育てる授業研究から「気持ちの良い関わり」や「児童が言いたくなる、聞きたくなる活動」の有用性を学び、授業実践を行うなかで児童の学習意欲が高まり、全ての授業における思考力や探究力の向上に繋がるのではないか。(知)
- ② 仲間や地域の人と関わり、共に活動し交流することで、自分も人も地域も大切に思い、人のために行動化できる児童が育つのではないか。(徳)
- ③ 自分の目標を持ち、健康な体づくりに励むことで自分を律することができるたくましい児童が育つのではないか。(体)
- ④ 命を守るために必要なことを主体的に協同的に学び合うことで、自分の心と体を守り育てる児童が育つのではないか。(命)

(4) 主な取り組み

- ① 自ら学び、伝え合う授業づくり
- ② 関わり合い認め会える仲間づくりと地域社会に学ぶ活動
- ③ 基本的な生活習慣の定着と基礎体力づくり
- ④ 命を守る学習と活動
- ⑤ 個に応じた特別支援教育の充実

(5) 研究の方向性

